

いじめから自分の言動の 重みを感じる

高山市立久々野中学校三年 矢嶋 愛実

「はあ、また起こったのか・・・。」と、いじめのニュースを見るとよく思います。

「なんで、こんなに起きるのかな・・・。」と私が思うのは、いじめが、どんなに人を傷つけることかを知っているからです。

皆さんは、いじめは良くないということを分かっていますか？もちろん、分かっていますよね。しかし、世の中にはいじめがあります。いじめはダメ！と訴える活動や呼びかけがあるのに、なくなりません。それはきっと、誰かへの怒り・憎しみ・嫉妬などが原因で、冷静な判断ができなくなってしまうからではないでしょうか。私もちょっとした怒りで態度を変えてしまった時がありました。後から冷静になると、悪い事をしてしまったなと思います。でも、相手にとっては、一生傷つくことにもなるいじめ。私は、皆さんが、いじめをしていいなんて思っていないことを知っています。だから、改めていじめがもたらす悲しさから自分の言動の重みを感じてほしいのです。

私が小学校四年生の時、クラスの中の三人に対して、みんなでいじめをしていました。仲間分けの時、その三人を避けて、三人を菌扱いしていました。誰から始まったのかは、分かりません。でも、今振り返ると、それがクラスの悪い雰囲気を作り始めた気がします。気が付けば、周りが三人を悪く言っていて、私はその流れに乗ってしまいました。私のように軽い気持ちだった人が多かったのでしょう。三人を助けようとした人はいませんでした。その状態が続いたことによって、みんなが三人に触れることを嫌がり、距離をとるのが当たり前になっていました。私は、これではダメだと思いました。三人に明るくなってほしいと思いました。私がダメだと思っても、周りの状態が悪化していくことが悲しかったのを覚えています。いじめは、自分が良くないと思っても、周りを気にして、相手をさらに傷つけてしまいます。それが良いように見えて、逆に事を悪くしている原因だったんだと思いました。

そんないじめがピークになっている時、いじめていた女の子から手紙をもらいました。手紙には「死にたい」という言葉がありました。私は、大きな衝撃を受けました。その子が私を信頼してくれているんだという嬉しさと、その子が死にたいと思うほど、苦しめたんだという後悔が混ざっていたことが、今も心に深く残っています。私は、周りを気にせず、手紙の返事を書きました。そして、いじめについて話し合いをした時に手紙のことをみんなに伝えました。みんなが真剣に聞いてくれる嬉しさや緊張で、涙をこらえながら話しました。その後、いじめはなくなりました。話し合いをして、みんなで心を一つにできたことが、嬉しかったです。

中学校三年生になり、国語の授業でスピーチの交流をしました。班の人のスピーチをお互いに聞いていた時、手紙をもらった子が、いじめについてのスピーチを始めました。その子は、いじめられていた時の本音、今のクラスへの本音を素直に話してくれました。スピーチの中で、私に「死にたい」という手紙を渡したこと、そして、私が話し合いで手紙の内容をみんなに伝えたことを話してくれました。大きな衝撃を受けました。まさか私が、話し合いで言った言葉を覚えてくれているなんて思わなかったので、驚き感激したからです。スピーチの後半には、クラスのみんなの態度がさらに変わっていました。つらい過去から前向きになっている姿を感じて、嬉しくなりました。残りの二学期も仲間を大切にしようと思いました。

私は、人をいじめたことを後悔しています。それほどいじめていないと思っても、手紙をもらったことで、相手の傷ついた気持ちを知りました。自分が思っている以上に相手は傷つくんだと思います。自分がされて嫌なことは相手にもしない、という言葉がありますが、私は、これが大切なんだと思います。常にこの言葉を頭に入れていれば、相手を傷つけることなく接していけるのだと思います。また、ちょっとした悪いことを軽はずみな気持ちでやらなくなると思います。怒り・憎しみ・嫉妬があるときに冷静な判断ができれば、相手が傷つくことはないですよ。だから、自分の言動で相手を傷つけてしまうことがあることを理解して、自分の言動の重みを感じてほしいです。そして、これからも仲間を大切にしてほしいです。